

取組① 造林事業における徹底した軽労化・省力化

- ・ 造林事業における担い手不足も踏まえ、植栽、下刈等の工程において軽労化・省力化に資する技術・施業方法を積極的に導入。
- ・ 特に、低密度植栽、長方形植え、中苗の活用拡大、下刈の省略、筋刈について普及・定着を図る。

低密度植栽(1800本植)の拡大及び長方形植の導入

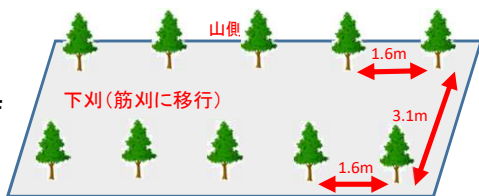
低密度植栽

植栽作業の軽労化のため、現在約2,000本/haの平均植栽密度から1,500～1,800本/haの低密度植栽を拡大(保安林の場合は指定施業要件に留意)。

※1,800本/ha以下の割合は、R4年度実績は18%

長方形植(1,800本植の場合)

従来の正方形植と比べて、列数が減少するため、植栽時の歩行距離は25%縮減される長方形植を導入。



(長方形植の例)

ドローンによる苗木運搬の実証

植栽作業の軽労化のため、ドローンによる苗木運搬を実証。



ドローンによる苗木運搬の様子
(高低差50m、直線距離300mを1回につき60本の苗木(コンテナ中苗)を往復約90秒で運搬)

シカ影響簡易調査の導入

森林総合研究所と連携し、シカネット設置の省略を判断するために、植生への影響度の簡易な調査を導入。

(調査場所)

- ・ 成林したスギ/ヒノキ人工林
- ・ 隣接する明るい開放地(林道/作業道/若齢造林地)

(調査項目)

- ・ シカの糞や足跡があるか。
- ・ シカを目撃したか。
- ・ シカによる樹皮剥ぎがあるか。 等

中苗の植栽拡大

下刈り回数削減が見込める中苗の植栽を拡大。

主な取組

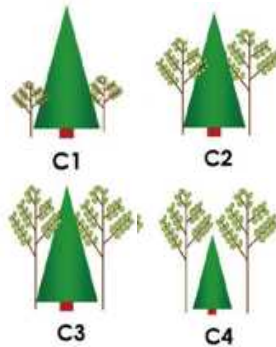
- ・ 苗木生産者へのコンテナ中苗増産の要請
- ・ 国有林における今後3年間の苗木需要見込みの提示

中苗の規格(右) ・ 苗高70～100cm
・ 根際径:7mm以上
(普通苗の苗高は35～70cm)



下刈省略及び筋刈の拡大

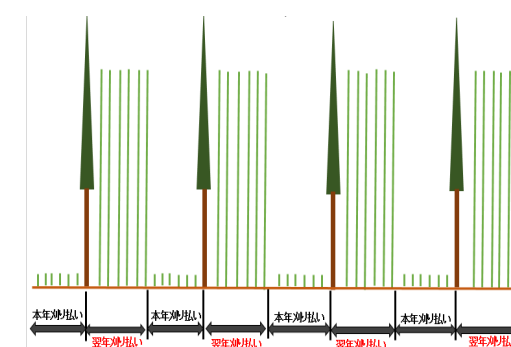
下刈作業の省力化のため、雑草木との競争状態を踏まえて下刈の省略と、筋刈を積極的に拡大。



下刈省略の基準。
C1、C2では省略を検討。



下刈を省略した林地(C2相当)



基本的な筋刈りの例